



鳥取環境大学生による 低炭素杯ピックアップ!

損保ジャパン日本興亜
環境財団最優秀わくわく未来賞

茨城県 常磐大学 「TOKIWA の森から地域再生 ESD プロジェクト 0円の森完成」

魅力度ワースト1の茨城をどうにかしたいと、常磐大学の学生が行ったのがこのプロジェクトです。地域の方々と共に長年放置されていた森の環境整備を行い、ホタルを呼びました。その際必要な材料や廃棄物の処理は、協力した方々が無償で対応しました。結果、魅力ある森を0円で作ることが出来ました。この活動は、森を有する水戸市でも広く評価されました。今後も地域との連携をより強固にしてこの環境を守っていくそうです。私も鳥取県の魅力を考え直すきっかけとなりました。



ウジエスーパー最優秀エコガニック賞

京都府 特定非営利活動法人 丹後の自然を守る会 地域に油を注げ! 低炭素型 食の好循環づくり

京都の与謝野町近辺は昔から水はけが悪く、水質汚染などが問題視されていました。そこで、農家や地域と協力し合い、環境改善に取り組んでいます。その一環として、田んぼで使うトラクターや、給食を配達するトラックなどに天ぷら油が利用されています。この団体では、15年前より天ぷら油の回収を行い、バイオディーゼルとして地域で利用しています。田んぼで採れたお米はお酒などに加工され、地元の福祉施設等で活用してきました。この食とエネルギーの地産地消の取り組みは、魅力の向上と地域課題を解決しています。その結果、低炭素社会の構築にも寄与する取り組みとなったのです。



私たちが選んだ

企画・審査委員特別賞

石川県 「石川の朝とれもん」 プロジェクト事務局 「朝セリ」の実施と地元消費者を ターゲットにした魚の地産地消プロジェクト

普段、魚は獲られると冷凍され、翌日せりに出されますが、この方法では多くのエネルギーによりCO₂が発生します。そこで、その日の朝獲れた魚をその日のうち



に流通させる「石川の朝とれもん」の取り組みを行いました。これにより、漁業者の負担が減るだけでなく、保管や包装に必要なエネルギーも減少しました。また、地域で流通させることによって、輸送にかかるCO₂の排出も減らしたのです。現在では、小学生の社会見学などの場になっています。従来から行われている方法を見直すことも大切なのだと感じました。

タカラトミー最優秀次世代賞受賞

公益財団法人神奈川県労働福祉協会 川崎市大師保育園 自然とふれあう、環境保育

大師保育園では若い世代の将来を守るために、自然とふれあう、環境保育を行っています。春夏秋冬の季節の移り変わりを体感したり、廃材や身近な自然の恵みを生活に取り入れられたりすることで、環境を近く感じられます。そうすることで、次第に興味や疑問が生まれ、多くのことを知ろうとするのです。こどもに教えるのではなく、自然と心行くまで遊んでもらうことで、自然や命を大切に育んでいるそうです。「こどもこそ未来」。これからの地球を守っていくには、幼いころからの自然とのふれあいが大切なのだと感じました。

